

1960年以降の医学部入学定員の推移と18歳人口

(上段は新設医大の設置前、中段は新設医大の設置後、下段は将来予測)

年 度	入学定員	18歳人口	医師になる割合	(18歳人口千人あたり養成数)
1960年	2,840人	200万人	704人に1人	(1.42人)
1966年	3,560人	249万人	699人に1人	(1.43人)
1969年	4,040人(医大新設前)	213万人	527人に1人	(1.90人)

1981年	8,280人(新設直後)	188万人	227人に1人	(4.41人)
2007年	7,625人(削減時)	130万人	171人に1人	(5.85人)
2010年	8,846人(増員後)	122万人	138人に1人	(7.25人)

2027年	8,923人	107万人 ^{*1}	120人に1人	(8.35人)
2040年	々	94万人 ^{*2}	105人に1人	(9.456人)
2050年	々	77万人 ^{*2}	86人に1人	(11.60人)

入学定員を11,000人に増員した場合の将来予測。

年 度	入学定員	18歳人口	医師になる割合	(18歳人口千人あたり養成数)
2027年	11,000人	107万人 ^{*1}	97人に1人	(10.3人)
2040年	々	94万人 ^{*2}	85人に1人	(11.8人)
2050年	々	77万人 ^{*2}	70人に1人	(14.3人)

(^{*1} 2027年の18歳人口: 2009年出生数107万人→18年後の2027年の18歳人口107万人)

(^{*2} 2040年、2050年の18歳人口: 国立社会保障・人口問題研究所の出生中位予測による)

表説明

(1). 1960年代の医師養成数（新設医大の設立前）.

1960年年代(S35年～S44年)は、医学部入学定員は3,000～4,000人で、当時の18歳人口は200万人以上であり、医師になるのは500～700人に1人(人口千人対2人以下)であった。

(2). 1970年代の医学部新設(34校)以降.

1970年代に34の医学部が新設され、定員は一気に8,280人(ピーク時定員)となった。18歳人口は100万人代に減少し、約200人に1人が医師になる時代となった。18歳人口千人あたり約5人の医師が養成されたことになる。

医師過剰が懸念され、2007年までに定員は7,625人まで削減されたが、人口比の養成数は増加。

(3). 現在(2010年)の医師養成数

2010年現在、定員は8,846人(削減時に比べ1,221人増員)、18歳人口は122万人であり、138人に1人の割合で医師が養成されている。人口千人あたり7.25人の養成数にあたる。

(4). 将来予測

① 2011年以降の定員(8,933人)の場合.

今後、我が国の人口は減少し、2040年に105人に1人(千人対10人)、2050年には86人に1人(千人対12人)の医師が養成される。

② 入学定員11,000人に増員した場合.

2027年には18歳人口の97人に1人(18歳人口千人対10人)の医師養成、

2040年には85人に1人(千人対12人)、2050年には70人に1人(千人対14人)の医師養成となる。

今後、志願者の学力低下が強く危惧される。

医師養成数の適正值は、その時々々の18歳人口千人あたりの医学部入学者数を基準に考慮すべきである。

医師が充足したならば、それ以降は、その時点の18歳人口千人あたり、必要な医師数を補充すればよい。

例えば、OECD平均を確保するためには、18歳人口千人あたり3.1人の入学定員でよいが、2010年現在の養成数は、7.25人であり、必要医師数の2.4倍が養成されている。将来は(医師が充足する6年前から)、定員を3,000人以下にする必要がある。

今後、約10数年間は、団塊世代の高齢化による医療需要の増加に伴い医師不足の深刻化が予測され、その対応が喫緊の課題である。しかし、10年経過以降は現状の医師数の増加傾向に伴って需給は緩和の方向に向かい、さらに、団塊世代の入れ替わり20年後以降は、急速に医療需要は減少することが予測される。

ちなみに、人口千人対3.7を越えるイタリア、スペインなどでは医師過剰が深刻で、イタリア統計局の資料によるとイタリアでは医学部卒業後5年以内に常勤のポストを得た医師は15%に満たないと報告がある。

(参考). 医師数の将来予測

(1). 現状の入学定員(8,846人)で推移した場合。

年	医師数*	日本の人口**	人口10万対医師数
2008年	27万1,897人	1億27,692人	212.9人
2030年	34万0,400人	1億15,225人	295.4人
2032年	34万1,532人	1億13,464人	301.0人
2040年	35万7,610人	1億05,695人	338.3人
2050年	36万9,820人	95,152人	388.7人

(2). 入学定員を2012年から11,000人(削減時定員7,625人の約1.44倍)にした場合。

年	医師数*	日本の人口**	人口10万対医師数
2008年	27万1,897人	1億27,692人	212.9人
2027年	35万3,538人	1億17,713人	303.3人
2030年	36万8,402人	1億15,224人	319.7人
2040年	37万9,150人	1億05,695人	358.7人
2050年	39万1,360人	95,152人	411.3人

* 医師数 : 厚労省による医学部入学定員を過去最大規模に増員した場合の予測値に
H21年(693人) および H22年(528人)の増員分を機械的に加算した。

** 日本の人口 : 国立社会保障人口問題研究所の中位予測による。